

1999年
国際高齢者年

七 老 小

脚本・監督

山
口

巧

いつか老人介護

愛

出 演



田中 実

深沢哲也 (30才)

「今のホームって、高齢者を施設に閉じこめて、特殊な社会を作ってるんだよ…」



細川直美(主演)

田上百合子 (23才)

「どう生きればいいのか解
ってくるんじゃないでし
ょうか…」

篠田三郎
内藤武敏
南 美江
片桐夕子
藤 森夕子

新田昌玄
横山あきお
木下ゆず子
大林丈史
田中規子

水原英子
山村晋平
〈特別出演〉
水野晴郎
中尾 彬

製 作

あすなる映画
フィルム・クレセント

「ちぎれ雲くいつか老人介護」

《あらすじ》

主人公は広告会社に勤める田上百合子(細川直美)、二十三歳。ある朝、ジョギング中に親友の直美の祖母にばったり出会う。そして、その老婆が徘徊癖のある痴呆老人であることを知る。以来百合子へ次々と高齢者について考えさせる出来事が降りかかってくる。百合子の上司(篠田三郎)が、両親の介護のために辞職する。又、老人ホームを抜け出して百合子を引っ張り回した老婆、ミキ(南 美江)を通して、老人ホームで暮らす老人達の、深澤(田中 実)との出会いでホームで暮らす老人達のことを見つけ始める。

そんな折、母方の祖父が脳血栓で倒れた。これまで面倒を見てきた叔母の不満が爆発し、誰が祖父の面倒を見るかという問題まで降りかかってくる。高齢者を誰がどのように介護すればいいのか、また高齢者自身はどう生きていけばいいのか、百合子は様々な問題に巻き込まれていく。

次第に百合子は老人介護という仕事に興味を持ち始める。生き活きと働くホームヘルパーの姿、老婆ミキの結婚、祖父の退院、直子の祖母の死、こうした高齢者をめぐる様々な事件、問題に直面する。喜び、悲しみの中で百合子は高齢者介護の必要性和意義を見出し、これからの自分の仕事として行くことを決意して、仲間に宣言する。「私、介護福祉士になる」。

《解説》

国連の統計では、高齢者(六十五歳以上)が人口の七%を越えた社会を「高齢化社会」、十四%を越えた社会を「高齢社会」と呼んでいます。西暦二〇〇〇年には日本の高齢者率は人口の十六・三%となり、二〇二五年には二十五・八%になると推測されている。

つまり、日本の総人口の約四人に一人が六十五歳以上の高齢者になる。まさに日本は、「高齢社会」の時代に突入したと言える。

高齢者だけの世帯、高齢者の一人暮らし、寝たきり高齢者、家族と同居していても孤独に沈んで生活しなければならぬ高齢者の暮らし等、問題にするべき事が、ますます増え続けて行くのに加えて、介護・年金・医療・住まいなど様々な問題が浮上する中で、私たちは否応なくこの現状への対応がせまられている。

この映画「ちぎれ雲くいつか老人介護」は、「高齢社会」という私たちにとって未経験である状況を知りかたしと受け止めて、充実した質の高い生活を構築していく為には何が必要なのか、爽やかなタッチで問題提起をしている。



南 美江

齋藤ミキ (82才)



篠田三郎

三井勝彦 (40才)



藤森夕子

木村康子 (30才)



内藤武敏

津村義夫 (78才)



片桐夕子

田上久子 (48才)



木下ゆず子

矢部ふみ (75才)



横山あきお

鈴木 (67才)



新田昌玄

奥山 (56才)



山村晋平

吉岡 (65才)



大林文史

田上義郎 (51才)



水野晴郎(特別出演)

三井昌彦 (70才)



中尾 彬

津村 一郎 (52才)

主題歌

『心のままに』

作詞・作曲
あらい眞
唄
ENNA&Mai

スタッフ

企画・製作	山 村 晋 平	照 録 美 編	明 音 術 集	林 深 落	和 義 晃
製作	村 澤 倉 沼	美 編	スクリプター	田 合 高	亮 亮
プロデューサー	相 笠 瀨 寺	編	スクリプター	大 岡 神 山	洋 浩 慶
	中 川 秀 雄	助 監 督	製作・コーディネーター	石 川 口 石	川 口 石
撮 影	中 川 秀 雄	監 督			
音 楽	(オリムピアピクチャーズ)				
	宮 本 光 雄				